

令和8年度岐阜県青少年美術展青年部の選定評

絵 画	<p>昨年より62点少ない142点の応募点数であり、作品制作離れが加速しているようである。今回の応募作品はモチーフを単純に写すだけでなく、構成から自分で絵づくりした作品が多くみられ、作品と真正面から向き合う姿勢が感じられた。作者が自由な表現方法を模索し、アナログだからできる表現を追究した結果である。</p>
デザイン	<p>手描きやデジタルに関わらず、手間をかけた作品が入選した。デザインはメッセージ性も問われるので、コンセプトを考える時間を十分にかけ、雰囲気だけで描かず、実物を観察するなど描写に至るまでの過程も大切にしたい。作品を出すにあたり、表面のビニールや側面のテープ、出品票の貼り方など、細部まで手を抜かず、自分の作品としての責任を果たしてほしい。</p>
立体造形	<p>昨年より点数が増え、素材、表現方法もバリエーションに富んでおり、見ていて楽しく、高校生ならではの視点、感性やエネルギーも感じる事ができた。ただ、完成度において今一步という作品もみられた。じっくり制作に取り組んでいただき、作品のコンセプトや、かたちの必然性などについて掘り下げながら、完成度を高めていってほしいと思う。</p>
書 道	<p>昨年からは若干の応募点数の減少はあったが、バラエティに富み力作ぞろいであった。漢字の書は臨書作品が多い傾向にあるが、創作作品にも見ごたえのある作品が増えた。仮名の書では、美しい料紙に、細字の臨書が映えていた。漢字かな交じりの書には、高校生らしさあふれる表現のものが多く、見ていて楽しい作品に仕上がっていた。</p>
写 真	<p>今回の応募作品は、弱い、強い、惜しい、そして、突き刺さる写真があった。自分にしか見えない質感を写真という言葉にして伝えている。個人的な視点という動機(Why)、何を見つけたかという個人の発見(Insight)、見る人にとってどんな意味があるのかという接続(Universal)、この3つを意識して写真を撮ると、人の心を動かす写真になる。</p>